

令和8年度
第68回 全国公立学校教頭会研究大会
第59回 北海道公立学校教頭会研究大会



札幌大会

第2次案内

- 研究主題** 『未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり』
主題に迫る視点「持続可能な社会の創り手の育成」「ウェルビーイングの向上」
- サブテーマ** 「夢と志をもち 未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進」
- 開催期日** 令和8年7月30日(木)・31日(金)
- 会場** 札幌コンベンションセンター(2日間とも同一会場)





【ごあいさつ】



全国公立学校教頭会
会長

稲積 賢

札幌大会に寄せて

昨年度までの第13期各大会では、会場参集とオンライン参加を併用し、さらにオンデマンド配信も行うことで、特に多忙と言われる副校長・教頭であっても、それぞれの勤務校等の状況に応じて研修を深められる環境づくりに努めてまいりました。

第68回全国公立学校教頭会研究大会は、北海道札幌市において開催いたします。令和8年度は、全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」を掲げた第14期3年間のスタートの年となります。本大会では「持続可能な社会の創り手の育成」「ウェルビーイングの向上」を視点とし、サブテーマに「夢と志をもち 未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進」を設定して研究を進めてまいります。前回の水戸大会に続き、対面・オンライン双方でのグループ協議を通して、それぞれの地域・勤務校での実践を踏まえた議論が期待されます。

教育は全国統一で同じ内容を扱いますが、地域や学校の現状は大きく異なり、そこから浮かび上がる課題も多様です。本大会において各地の実践報告や研究成果を共有し、互いに研鑽を深めることで得られる知見は、必ず各校の教育活動に生かされるものと考えております。また、全国の同職の仲間と語り、課題を分かち合うことは、一人職が多い私たちにとって心強い支えとなると感じております。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。



札幌大会
実行委員長

照井 志暢

夢と志をもち 未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進

茨城大会実行委員会より確かなバトンを受け継ぎ、第68回全国公立学校教頭会研究大会を北海道札幌市にて開催いたします。北の大地の玄関口である札幌は、豊かな自然と都市機能が見事に調和し、四季折々の美しさと多彩な食の魅力にあふれる街です。この札幌の礎を築いたクラーク博士が残した「Boys, be ambitious! (少年よ、大志を抱け)」という言葉は、今もお私たちの精神的な支柱として根付いています。

現在、教育界は大きな転換期にあります。第4期教育振興基本計画では「持続可能な社会の創り手の育成」と「ウェルビーイングの向上」が掲げられ、学校が果たすべき役割は、確かな学力の育成からD Xの推進、多様な教育ニーズへの対応まで多岐にわたっています。子供たちのウェルビーイングを実現するためには、教職員自身が働きがいを実感できる職場環境づくりが不可欠であり、その構築は喫緊の課題となっています。

さらに本年は、次期学習指導要領の改訂に向けた答申が取りまとめられる、教育の未来を左右する極めて重要な年でもあります。これまでの「資質・能力の三つの柱」を基盤としつつ、学校の裁量拡大や「余白」の創出、生成A Iへの対応など、新たな時代にふさわしい教育課程の在り方が、今まさに問われています。この改訂の動向を見据え、各学校がどのように特色ある教育活動を展開していくべきか、その羅針盤を示すことが私たちに求められています。

こうした複雑で困難な課題を解決する道のりにおいて、私たち副校長・教頭が果たすべき役割は極めて重要です。自らが研鑽を重ね、「チーム学校」の「推進力」となり、時には組織を円滑に動かす「潤滑油」となって学校運営に深く関与していくことが求められています。多忙な日常の中にあっても、俯瞰的な視点と柔軟な思考を持ち、教職員一人ひとりの意欲を引き出しながら、組織としての力を最大化させていくことが、活力ある学校づくりの鍵となります。

本大会では、サブテーマを「夢と志をもち、未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進」と設定いたしました。全国から集う皆様の多種多様な実践を共有し、次期改訂を見据えた自校の課題解決に向けた新たな一歩を導き出す、実り多き学びの場にしたいと考えております。

夏の爽やかな風が吹き抜ける札幌の地で、皆様が抱く「大志」を語り合い、未来の教育を共に紡いでいけることを、実行委員会一同、心より楽しみにお待ちしております。



【開催要項】

1 主催

全国公立学校教頭会 北海道公立学校教頭会

2 主管

札幌市小学校教頭会 札幌市中学校教頭会

3 後援(申請予定)

文部科学省 全国都道府県教育長協議会 北海道 札幌市
 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道町村教育委員会連合会
 北海道都市教育委員会連絡協議会 全国連合小学校長会
 全日本中学校長会 全国へき地教育研究連盟 北海道小学校長会
 北海道中学校長会 札幌市小学校長会 札幌市中学校長会
 公益社団法人日本PTA全国協議会 北海道PTA連合会 札幌市PTA協議会
 公益社団法人日本教育会 公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部 (順不同)

4 研究主題

『未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり』(全国統一研究主題 第14期 1年次)
 主題に迫る視点「持続可能な社会の創り手の育成」「ウェルビーイングの向上」

サブテーマ

「夢と志をもち 未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進」

5 開催期日

令和8年7月30日(木)・31日(金)

6 開催地

北海道札幌市

7 会場(2日間とも同一会場)

全体会場・分科会会場:札幌コンベンションセンター

8 開催方法

参集型・オンライン型を併用したハイブリッド大会

9 日程

日	時間	内容
第1日 7月30日(木)	11:30	受付
	12:30	開会行事
	13:20	シンポジウム
	15:20	休憩
第2日 7月31日(金)	9:20	受付
	9:40	分科会
	12:00	昼食
	12:50	分科会
	15:10	閉会行事
	15:30	記念講演
	16:45	



研究内容

夢と志をもち 未来をしなやかに歩み続ける

研究の基本目標

AIやIoT、ビッグデータなどの先端技術が急速に高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた超スマート社会Society5.0時代の到来をはじめ、グローバル化の進展や人口構造の変化など社会の様々な領域で加速度的に日々変化し、将来を予測することは難しくなっています。将来の予測が困難な社会状況の中で、時代の進展を的確にとらえ今後の教育の在り方を見極め、日本国憲法・教育基本法・学習指導要領の理念に基づき、子供たち一人一人に、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む学校教育を実現していくことが、私たちの大きな使命だと考えています。

このような背景を踏まえ、「社会や地域に開かれた学校づくり」を展開し、未来を拓く「生きる力」を高め、豊かな人間性や創造性、国際社会の一員としての自覚をもち、持続可能な社会の担い手となる人材を育成するために私たちは貢献しなければなりません。その使命を果たすために私たちは、副校長・教頭の職務内容の研究を通して力量を高め、国民の期待に応える魅力ある学校づくりに努めることが求められています。

さらに、教師自身が働きがいを持ち、心身ともに健康な状態で教育に携われるための環境整備は加速度的に進行することが想定され、そこにかかる副校長・教頭の責務もますます重要視されてきます。

第14期研究は以上の情勢のなか、次のことを基本目標として3年間の研究実践を重ねていきます。本年度は昨年度までの研究実績を検討しつつ、新たな研究の方向性を見出していく節目となります。

教育理念に基づく 学校教育の実現

特色ある学校づくりを展開し、
生きる力を育む学校教育の
実現を目指す。

副校長・教頭としての 力量の向上

広い視野に立つて学校運営が
行えるよう、学校教育に対する
識見を深める。

学校の 社会的役割の推進

国民の期待に応える魅力ある
学校づくりを推進する。

分科会	課題名	各課題の内容	提言者
第1A	教育課程に関する課題	◇信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価(カリキュラム・マネジメント) ◇教育目標の設定と具現化 ◇教科横断的な視点に立った資質・能力 ◇教育課程の実施と学習評価	東北 福島(小)
			北海道 小樽市(中)
第1B		◇幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携 ◇小中一貫教育 ◇家庭や地域との連携及び協働	関東甲信越 群馬(中) 北海道 檜山(小)
第2	子供の発達に関する課題	◇確かな学力の確実な定着 ◇児童生徒の豊かな人間性の育成 ◇児童生徒の健康・体力の増進 ◇生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成 ◇その他、児童生徒の発達を支える教育課題	東海北陸 愛知(中)
			北海道 帯広市(小)
第3	教育環境整備に関する課題	◇児童生徒の安心安全 ◇学校の施設設備 ◇学校、家庭、地域との連携と協働 ◇学校規模適正化 ◇文書事務、経理事務の管理 ◇教育の情報化	近畿 和歌山(小)
			北海道 函館市(中)
第4	組織・運営に関する課題	◇学校運営全般 ◇人材育成や組織力向上 ◇リスク管理や危機管理 ◇地域連携(コミュニティ・スクール) ◇異校種間連携 ◇その他、組織・運営	中国 島根(中)
			北海道 函館市(小)
第5A	教職員の 専門性に関する課題	◇教職員の専門家としての意識向上 ◇教職員の指導力等の育成 ◇教職員の研修 ◇教職員の服務 ◇学校段階間連携を通じた、教職員の課題意識の向上 ◇教職員の協働体制の構築 ◇教職員の学校運営参画意識の向上	四国 愛媛(中)
			北海道 釧路市(小)
第5B			九州 沖縄(中) 北海道 オホーツク(小)
第6	副校長・教頭の職務内容や 職務機能に迫る課題	◇チーム学校における職務内容に関すること ◇効率的な学校運営に関すること ◇教職員の働き方改革に関すること ◇教職員の支援に関すること ◇副校長・教頭候補者の育成に関すること	全公教担当 (総務・調査部)
特別Ⅰ	時宜に応じた課題	◇働きがい高め、教職員を育て、つなげるための学校としての取組と副校長、教頭の役割	全公教担当 (研究部)
特別Ⅱ	開催地の創意を生かした課題	◇地域の特性を生かした教育活動の推進 ◇地域や社会と取り組む学校づくりの推進 ◇地域の歴史を生かした教育活動の推進	開催地実行委員会 (北海道札幌市)



力を育む 活力ある学校づくりの推進

研究の基本方針

①

学校教育の課題の解決に努める

私たちの研究は、国民の期待に応え、教育基本法及び学校教育法等の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目的とする。そのために自ら職能を高め、学校現場が抱えている課題の解決に努める。

②

副校長・教頭の職務内容や職務機能を追求する

学校運営において副校長・教頭としての関わりを大切にし、その職務内容を実践的に追求するとともに職務機能の充実を図る。

③

研究成果を政策提言活動(要請活動)に生かす

研究活動と政策提言活動(要請活動)は全国公立学校教頭会の活動の2本柱である。研究の成果を政策提言活動に生かし、教育環境の整備に役立てていくよう努める。

提言テーマ	会場(階)	分科会
地域が抱える課題を共有し、解決に向けた教育課程の工夫 —「地域とともにある学校」を実現するための地域との共働体制の構築を通じた「会津ならではの」学校づくりを目指して—	大ホールA(1)	第1A
主体的に学び小樽の未来を創る豊かな人づくりを目指す 活力ある学校づくり —カリキュラム・マネジメントを軸とした学校改善を図るために教頭はどう関わるか—	大ホールB(1)	第1B
連携型小中一貫校(分離型)における特色を生かした教育課程の編成について —藤岡市の進める一貫校構想の組織的な対応と教頭の関わりについて—	大ホールC(1)	第2
檜山の特色を生かし未来を切り拓く力を育む魅力ある教育活動の推進と教頭の役割 —ふるさとに根差す活力ある教育課程づくり—	特別会議場(1)	第3
21世紀をたくましく生き抜く子供の豊かな人間性の育成 —不登校の未然防止に向けた取組を通して—	107・108(1)	第4
ウェルビーイングを基軸とした学校経営と教頭の新たな役割 —北海道帯広市の体系的な実践から学ぶ教頭のマネジメント機能の強化—	中ホール①(1)	第5A
地域と共に歩む学校づくり —学校運営協議会のさらなる充実に向けた教頭の役割—	中ホール②(1)	第5B
安心して学び、共に成長できる教育環境整備における教頭の役割 —校内支援体制の再構築と「しなやかに歩み続ける力」を育む学校づくり—	204(2)	第6
小規模な教頭会組織による研究大会運営に向けての取組 —11人で281名の教頭先生をおもてなし—	講演会 小ホール(2) 分科会 206・207(2)	特別 I
未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を育む 活力ある学校づくり —活力ある学校をつくる「組織・運営」における教頭の関与の在り方—	201・202(2)	特別 II
若手教員の授業力向上に向けた教頭の関わり —「松山の授業モデル」の実現に向けて—		
夢と志をもち未来を切り拓く力を育む活力ある学校づくりの推進 —教頭間の日常的なつながりを基盤とした質の高い教職員集団の育成—		
教職員の資質能力の向上を図るための教頭の関わり —授業改善を核とした連携・協働を通して—		
学校段階間連携を通じた、教職員の学校運営参画意識の向上 —18年間を見据えた保小・小中・中高連携の取組の推進と教頭の役割—		
①全公教の調査結果分析と考察 ②講演 演題未定 講師：藤原 文雄 氏 文部科学省 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部長		
副校長・教頭の働きがいをも高める学校マネジメント 講師：青木 栄一 氏 東北大学大学院教育学研究科・教育学部教授		
「地域の特性を生かした体験活動を通じた豊かな心身の育成」 —積雪寒冷地における地域や社会と取り組む学校づくり— ・講演1：スポーツ庁政策課教科調査官 岩田 悟 氏 (予定) 「豊かな心は健やかな体から」 ・講演2：北海道オールオリンピアンズ General Manager 鈴木 靖 氏 「地域のスポーツ資源を生かした学校づくり—多様な体験活動を通じた共生社会の実現に向けて—」		



【シンポジウム・記念講演 講師】

■シンポジウム《7月30日(木) 13:20～15:20》

コーディネーター

北海道教育大学 教職大学院札幌校
教授

渋谷 一典 氏



平成2年から札幌市立の小学校で4校勤務後、札幌市教育委員会指導主事、文部科学省初等中等教育局教育課程課・教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター・教育課程調査官を歴任。札幌市立小学校の校長を経て、現職。専門は生活科教育、総合的な学習の時間および総合的な探究の時間に関する学習指導、教育課程、幼小接続・連携、カリキュラムマネジメントなど。

【子どもの頃の夢】

ウルトラマン、物知りはかせ

シンポジスト



文部科学省国立教育政策研究所
教育政策・評価研究部長

藤原文雄 氏

博士(教育学)。民間企業、国立大学勤務を経て、2010年から国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官、2020年より初等中等教育研究部長、2023年より教育政策・評価研究部長併任。2025年から、教育政策・評価研究部長に配置換え。専門は教育行政学。

【ストレス解消法】映画を見てよく寝ること



株式会社MammyPro
代表取締役

阿部 夕子 氏

平成18年7月株式会社MammyPro設立。同年9月北海道育児情報サイト「ママNavi」を立ち上げ、札幌市内30代を中心に子育て中の主婦が登録するビックサイトに成長。平成24年～令和6年札幌市教育委員等、札幌市の教育、市民の未来を創造する企画に多角的に参画。札幌市在住1女の母親。

【趣味】ゴルフ、サウナ、カフェ巡りや食べ歩き



札幌市立伏見中学校
校長

工藤 真嗣 氏

平成3年から札幌市立の中学校で社会科教諭として2校勤務の後、札幌市教育委員会指導主事、札幌市教育委員会研修担当課長、教育相談担当課長等を歴任。令和3年、北海道で唯一の公立の夜間中学校、「札幌市立星友館中学校」の初代校長として着任。

【休日の過ごし方】犬の散歩

■記念講演《7月30日(木) 15:30～16:45》



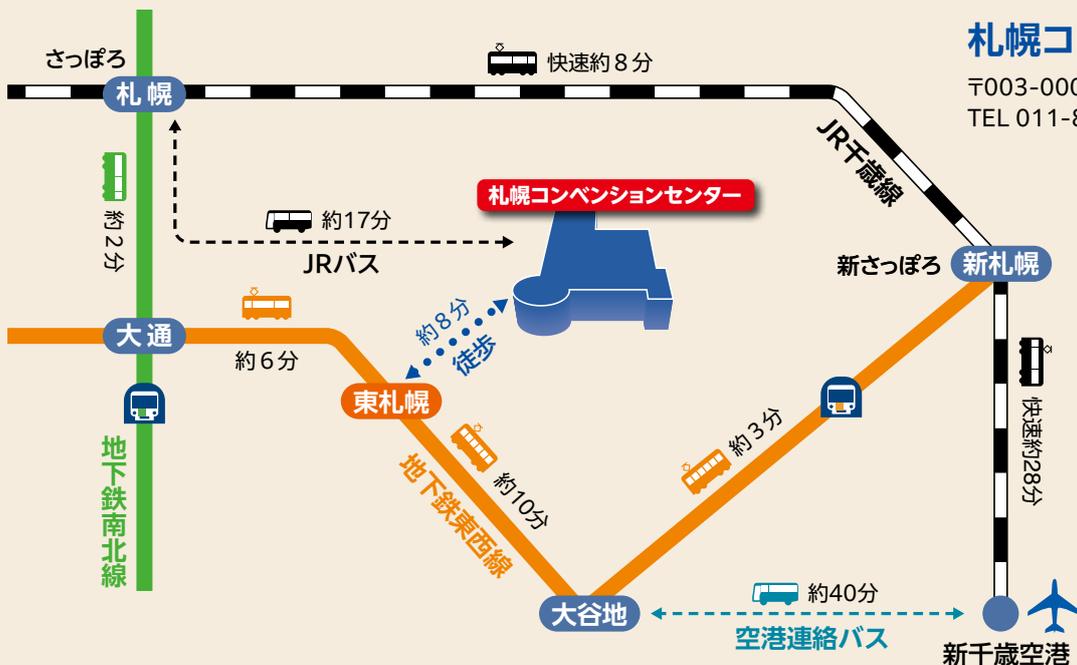
作曲家・音楽プロデューサー

蔦谷 好位置 氏

1976年生まれ。北海道札幌市出身。幼少の頃よりピアノ・パソコンに触れ、特にクラシックに深い興味を持ち独学で学ぶ。その後幅広いジャンルを研究・演奏し造詣を深めた。2000年、バンド CANNABISとしてメジャーデビューし、その後2004年agehaspringsに加入。これまで、YUKI、ゆず、エレファントカシマシ、稲葉浩志、米津玄師、JUJU、back number、SEKAI NO OWARI、Official髭男dism、milet など数多くのアーティストへ楽曲提供やプロデュース、アレンジを行う。また近年では、大ヒット映画『ウィキッド ふたりの魔女』『ウィキッド 永遠の約束』『キャッツ』では日本語吹替音楽プロデューサーを、映画『SING/シング』では音楽プロデューサーとして日本語吹替版監修を担当。2018年には自身の変名プロジェクトであるKERENMI(ケレンミ)も始動し、ドラマの劇伴や主題歌を担当するなど、ビートメイカーとしても活躍している。



会場へのアクセス



札幌コンベンションセンター

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
TEL 011-817-1010 FAX 011-820-4300



◎地下鉄東西線

「東札幌」駅

①②番出口より徒歩約8分

・さっぽろ駅、大通方面から到着ホームからそのまま地上に出ると①番出口です。右手に進み、北海道銀行(北海道エナジティック・コンベンションゲートウェイビル)を目印に右折。道なりに進みます。

・新さっぽろ方面から到着ホームから地上に出るのは②番出口です。左手に進み、二つ目の信号を渡ります。北海道銀行(北海道エナジティック・コンベンションゲートウェイビル)の前を通り、道なりに進みます。

◎JR北海道バス

「中央1条1丁目」

バス停より徒歩約8分

・札幌駅前からJR北海道バス[新札幌線1]約17分

■大会問合せ

全国公立学校教頭会研究大会 札幌大会実行委員会

(北海道公立学校教頭会事務所内)

実行委員長 照井 志暢

TEL 011-746-3254

E-mai : doukokyo@mua.biglobe.ne.jp

■参加申込

(1) 令和8年4月30日(木)まで

各单位教頭会、副校長会事務局は参加要請数に基づいた「参加者名簿一覧表」を札幌大会実行委員会事務局へ提出する。

(2) 令和8年5月1日(金)から5月31日(日)まで

「参加者名簿一覧表」に記載された全ての参加者が「大会申込専用サイト」にて参加申込をする。

<大会申込専用サイトURL>

<https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/68-kyotokai/>

※ 6月上旬より大会参加費(オンライン含)並びに大会2日目の昼食代の請求書を、各单位教頭会・副校長会事務局へ送付予定。各单位教頭会・副校長会事務局は、6月15日(月)までに納入を完了する。



大会申込・宿泊先のお問合せ

東武トップツアーズ(株)札幌支店

〒060-0051

札幌市中央区南1条東1丁目3

パークイースト札幌7

FAX 011-222-4357

担当:中井 康裕/荒井 敬幸

営業日時:平日(土日祝休) 9:30~17:30

●下記メールアドレスよりお問合せください。

68-kyotokai@tobutoptours.co.jp

札幌大会「申込」から「支払」まで～ダイジェスト版～

第0弾 大会事務局が「札幌大会参加者名簿一覧表」を各教頭会事務局にメール送信
3月9日（月）

第1弾 各教頭会事務局が「札幌大会参加者名簿一覧表」を完成させ
4月30日（木） ← **間に合わない場合は待ちます。できる限り早めの提出を** **大会事務局にメールで返信**

※提言者がいる都道府県は、提言者を必ず名簿に記入すること。
※全公教の役員、専門部員を名簿に記入しないこと。
※視察者は「欄外」に記入すること 視察者は参加要請数に含まれません。だから欄外です。
視察者とは「各教頭会事務局の事務職員」または「兵庫大会・島根大会準備委員で分科会に所属せず大会運営のために広く視察する教頭先生のことです。」

第3弾 参加者個人がWeb 申込をする
5月1日（金）～5月31日（日）

東武トップツアーズ
Web システムから申
込を



<https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/68-kyotokai/>

操作はいたって簡単 詳しい操作方法はWeb システムトップページMENU「操作方法のご案内」をお読みください

- 1 Web システムに入る
- 2 メールアドレス登録（このメルアドに大会の連絡が届く可能性あり）
- 3 認証メールが届いて Web システムにログイン
- 4 申込者登録
- 5 参加者登録

基本的には1～5でWeb 申込は完了。この過程で参加者個人の「支払」は発生しません。

ただし東武トップツアーズが斡旋する9か所の「ホテル」に宿泊したい場合は

- 6 宿泊ホテルの申込
- 7 宿泊ホテル代の支払をします。（クレジット決済か銀行振込か）

この2つの操作を追加してWeb 申込完了となります。

第4弾 東武トップツアーズ札幌支店が各教頭会事務局に「請求書」を郵送
6月上旬

指示があれば

指示がなければ

下記の内容が記載された「1枚の請求書」が届きます
参集参加者一人 3,000 円の大会参加費×人数分
オンライン参加者一人 3,000 円の大会参加費×人数分
参集参加者 2 日目弁当・お茶代 1,500 円×人数分

※「複数枚の請求書」に分けて発行します。その場合は、大会事務局にその具体をご連絡ください。5月31日までに
大会事務局 電話 011-746-3254 FAX 011-757-9611 メール doukokyo@mua.biglobe.ne.jp

大会参加料と弁当・お茶代について

- 提言者の大会参加費と弁当・お茶代は大会事務局で支払いますので請求しません。
- 各教頭会事務局から視察者として参加する事務職員には大会参加料を請求しません。
- 兵庫大会・島根大会の準備のために視察する教頭先生には大会参加料と弁当・お茶代を請求します。
- 弁当・お茶代については参集参加者全員分、請求いたします。ただし、各教頭会事務局から視察者として参加する事務職員には希望をお聞きする予定です。

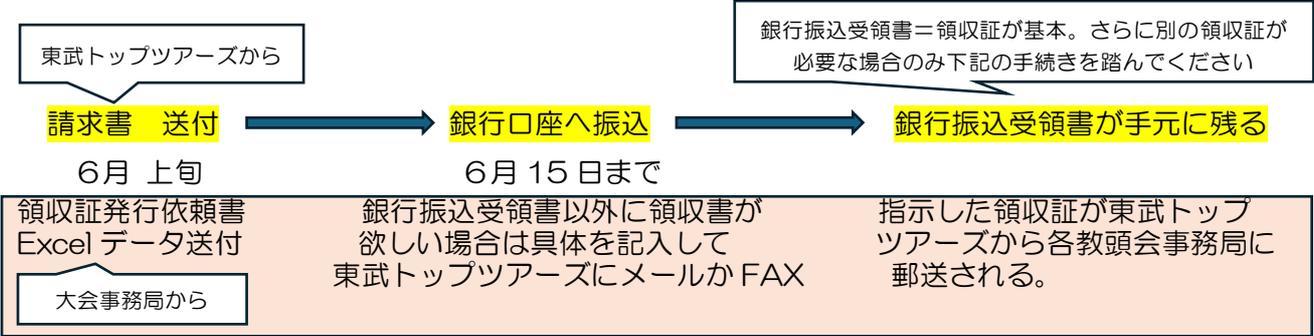
第5弾 各教頭会事務局が合計金額を東武トップツアーズの指定口座に振り込む
6月15日（月）まで

領収書の発行にともなって

第6弾 大会事務局が各教頭会事務局に「領収証発行依頼書」のExcelデータを送信
6月上旬

大会事務局からすべての教頭会事務局に領収証発行依頼書のExcelデータを請求書のタイミングに合わせて送信します。

銀行振込受領書以外に「領収証」が必要な場合、その具体をExcelデータに記入し、東武トップツアーズへメールまたはFAXしてください。6月15日までです。

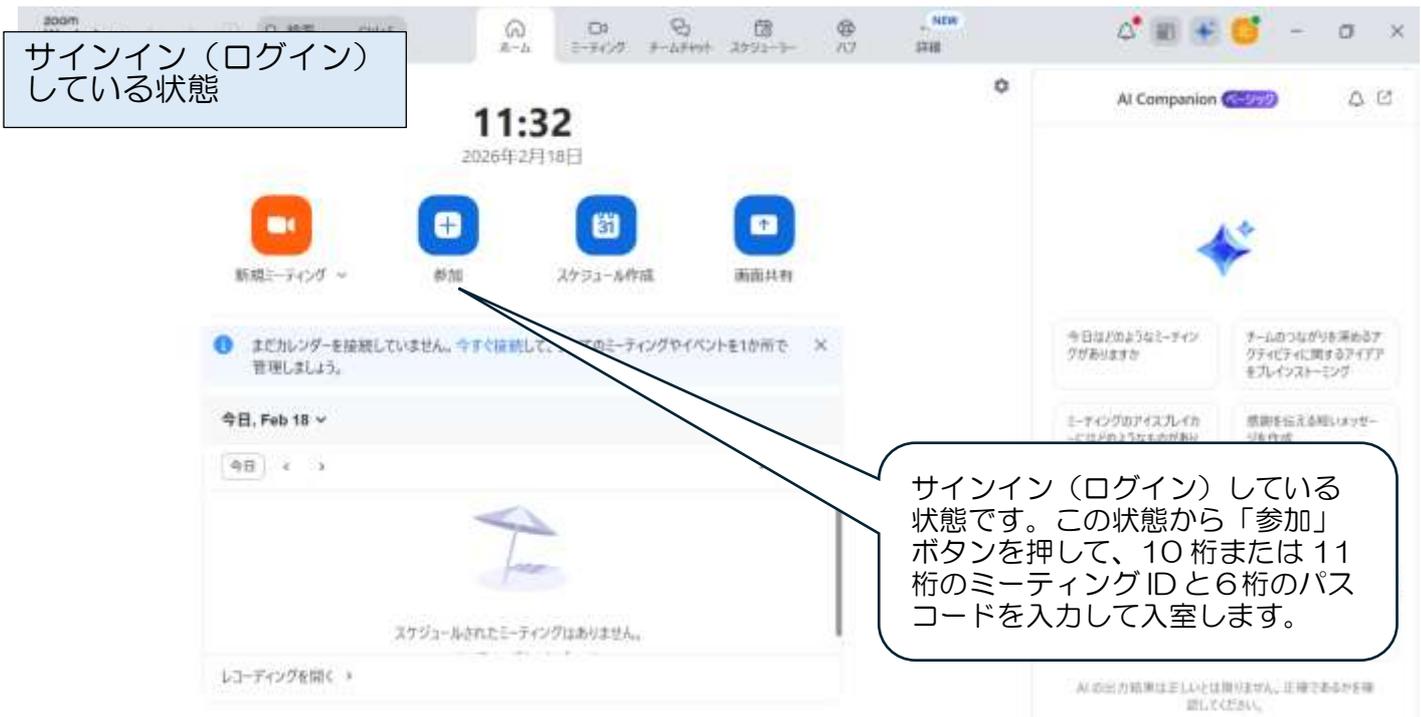


東武トップツアーズ札幌支店 FAX011-222-4357 メール 68-kyotokai@tobutoptours.co.jp

これまでの大会に倣い大会事務局より「大会参加費 3,000 円」の領収書、「2日目弁当代・お茶代 1,500 円」の領収書を作成し、その PDF データを各教頭会事務局に送信いたします。必要があれば印刷の上ご使用ください。

■■■■■■■■■■オンライン参加者に「徹底したい」こと■■■■■■■■■■
各教頭会事務局の皆様の「御協力」が不可欠です

オンライン参加者は **Zoom にサインイン (ログイン) した状態** で、ミーティング ID とパスコードを打ち込んで入室していただくことを「徹底」します。



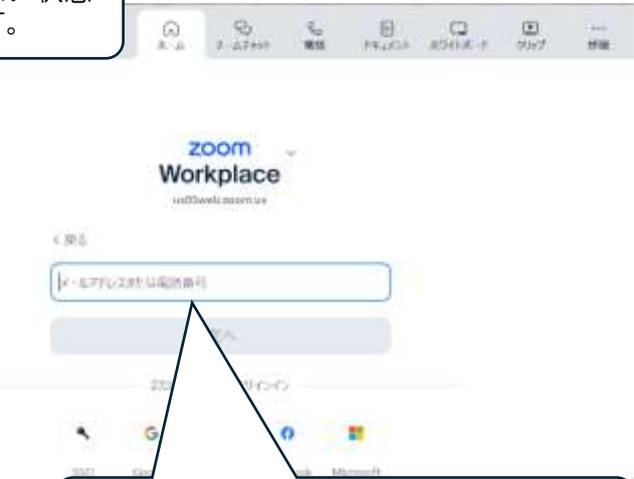


サインイン（ログイン）していない状態

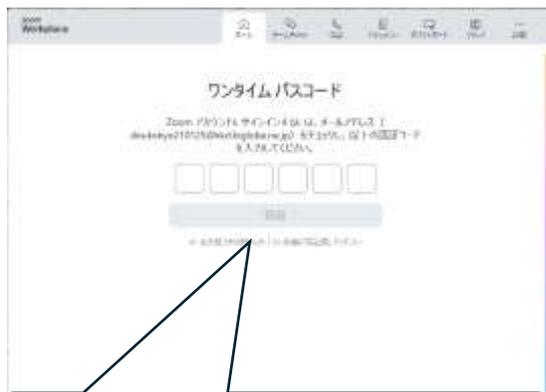
これはサインイン（ログイン）していない状態です。サインインを押して次に進みます。



ミーティングに参加を押しても入室できますが札幌大会ではやってはいけません。サインイン（ログイン）してから入室します。同様に招待用の URL からの入室もサインイン（ログイン）していないことと同様です。札幌大会では URL を用意しません。



メールアドレスを入力します。



初めてだったり、久しぶりだったりするとワンタイムパスワードがメールアドレスに送られてくるのでその数字を入力します。



パスワードを入力します。するとサインイン（ログイン）の状態になります

どうしてサインイン（ログイン）して参加していただくのか。どうして簡易的に Zoom に入室してはいけないのか

オンライン業者さんの切なる願い

オンライン業者(早稲田大学アカデミックソリューション)の切なる願いです。茨城大会ではサインイン（ログイン）でも簡易的な入室でも OK でした。大会事務局が事前に示した「名前の表示の方法」に従って当日朝に参加者をグループ分け

大会当日朝のグループ分けは危険

するはずでした。しかしふたを開けると指示通りに名前が表示されなかったり、名前の変更を促しても変更ができなかったりして、分科会によってはスタートが遅れたところもあったということです。

札幌大会では事前にグループ分けをします

ですから、札幌大会ではグループ分けを当日朝ではなくて事前に行っておくことに変更します。その事前のグループ分けに必要な情報がサインイン（ログイン）する時に使用する「メールアドレス」なのです。メールアドレスを使ってグループ分けするのです。

グループ分けにはサインイン（ログイン）する時のメールアドレスの登録が必要

そこでオンライン参加の教頭先生にお願いすることは、Web 申込の過程の「5 参加者登録（1 ページ参照）」をする時に、Zoom にサインイン（ログイン）する際のメールアドレスを記入（必須）してもらうことです。記入しなければ先に進めない「必須」項目に設定しております。ご協力をお願いします。

大会当日も登録したメールアドレスでサインイン（ログイン）

そして大会当日は登録したメールアドレスでサインイン（ログイン）して入室してくれば、トラブルなく分科会を始められるという計画です。



Zoom アプリをダウンロード

している

していない

ダブルクリックする

ダウンロードして、メールアドレスとパスワードを登録して、サインイン（ログイン）してください。

サインイン（ログイン）状態に

なっている（2 ページ下段）

なっていない（3 ページ上段）

メールアドレスを

メールアドレスを

覚えている

覚えていない

覚えている

覚えていない

OK

5 ページをヒントに
メアドを見つける
OK

入力

可能性のあるメアドを入力

うまく進めた

うまくいかない

パスワードを

メールアドレス
パスワード再登録

覚えている

覚えていない

サインイン（ログイン）

サインイン（ログイン）

パスワードを再登録

OK

●Zoom アプリを開くとサインイン状態になっているがメールアドレスを忘れている場合

ここをクリック

